三鷹市立大沢台小学校　令和8年度【理科】授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第3学年		〈学習状況の現状と課題〉 ・実験や観察は意欲的に取り組み、自分の考えを発表する児童が多い。 ・植物の観察では、観察のポイントに合わせて成長の様子をまとめられる児童が増えてきているが、個人差がある。 ・ノートに自分の予想や考察を書くことが難しい児童がいる。 ・問題、予想、方法、結果、分かったことの流れを理解して、主体的に実験や観察に臨むことのできる児童が増えてきた。 ・生き物の観察では、昆虫に対して苦手意識がある児童がいる。	〈指導方法の課題〉 ・自分の予想や考察を立てさせること、引き出すことができていなかった。 ・実験や観察の視点を理解しておらず、予想や考察ができない児童が一定数いた。 〈授業改善策〉 ・実験や観察の視点をよく確認し、より多くの児童に明確に意識させる。 ・自分の予想や考察の書き方の指導が不十分なところがあったため、見通しをもって取り組めるよう全体で指導や確認をしていく。 ・課題や問題をそのままにせず、自分で解決できるように友達と相談したり調べたりする時間を設ける。
第4学年	〈成果〉 ・実験、観察前に予想とその理由を考え、互いに交流させたことで、問題意識を高めることができた。 〈課題〉 ・実験から分かったことや自分の予想を言葉で表現することへの苦手意識をもつ児童がいる。 ・問題の場面をイメージできない児童がいる。 ・結果から言えることを分からないと取り組まない児童も少なくない。	〈学習状況の現状と課題〉 ・問題に対して自分の予想を立てられる児童が増えてきた。 ・観察や実験を通し、結果から考えたことをまとめたり、新たな疑問を見出したりすることが苦手な児童がいる。 ・実験や観察の結果から得られた知識が定着していない児童がいる。 ・結果と自分の予想とを比べて考えられない児童がいる。	〈指導方法の課題〉 ・観察や実験活動を知識として身に付けるための手立てが不十分であった。 ・考察を自分の言葉でまとめる方法を丁寧に指導する必要があった。 〈授業改善策〉 ・実験や観察の方法を事前に丁寧に確認し、正しい実験の仕方、器具の扱い方を身に付けるようにする。 ・実験や観察の後に動画教材を活用し、理解を深められるようにする。 ◎考察を記述する際に、キーワードとなる言葉を全体で確認することで、自分の言葉で表現することに慣れさせる。 ・考察は結果からいえることを記すだけでなく、予想と結果を比べ振り返ることで、見通しをもって実験を取り組めるようにする。
第5学年	〈成果〉 ・予想を立てる際、どうしてそのように考えたのか理由を書かせるようにしたことで、学習課題を身近なものや既習事項と結び付けて考えられる児童が増えた。 〈課題〉 ・学習課題を解決するまでの筋道を考える児童が少ない。 ・条件制御の視点をもてず、実験方法を考えることができない児童がいる。	〈学習状況の現状と課題〉 ・植物、メダカなど、実際に学校農園や教室で育てることを通して、興味をもって観察し、理解を深めていた。 ・実験の際には、ＩＣＴ機器等を活用しながら事象を観察し、記録することができる。しかし、実験したことが知識として身に付いていない児童がいる。 ・実験の過程（予想・実験・結果）を反映させながら、考察やまとめを考える力が全体的に十分ではない。 ・学んだことを身近な生活に置き換えて考えることができていない児童がいる。	〈指導方法の課題〉 ・学習課題を身近なものとして捉えられていないものもある。 ・予想や仮説を基に、問題解決させることができていなかった。 ・学んだことを日常生活の自然事象に結び付けて考えさせる学習を十分にしていなかった。 〈授業改善策〉 ・学習課題を身近なものや既習事項と結び付けて考えられるように、導入を工夫し、児童が考えたいと思えるようにする。 ◎実験などの際には、課題、予想、実験方法、結果、考察と項目立てをし、それぞれどのようなことを書けばよいのか視点を明確にする。必要があればキーワードを提示するなど工夫をして言語環境を整える。 ・学んだ内容が日常生活のどのような場面に活用されているのかを考えさせたり、教師側から提示したりする機会を設ける。また、考察や振り返りを共有することで、表現方法を増やす。
第6学年	＜成果＞ ・実験では自分で予想を立ててから見通しをもって学習に取り組むことができた。 ・実験の予想や結果を学級の仲間とすすんで交流しようとする姿が多く見られた。 ＜課題＞ ・実験後の結果について、定着度に差がある。	〈学習状況の現状と課題〉 ・観察・実験の用具の扱い方を多くの児童が理解したが、知識の定着には至っていない児童がいる。 ・実験結果から考察を考えることができる児童が増えてきた。 ・実験結果をもとに、意欲的に考察し交流しようとする児童がいる一方で、実験がうまくいったことで満足している児童がいる。	〈指導方法の課題〉 ・理科的用語が身近なものになっていない。 ・実験結果を考察する態度が身に付いていない児童が数人いる。 〈授業改善策〉 ・観察・実験の用具、理科用語が身に付くよう、授業の中で繰り返し確認する。 ・条件制御を理解して実験に取り組み、そこで出た結果を考察する時間を十分にとる。 ・学習課題を何度も全体で意識させるだけでなく、実験方法を教え合い、確認してから実験を行うようにする。 ◎考察を記述する際に、キーワードとなる言葉を用いて文章をつくることを意識させ、自分の言葉で表現することに慣れさせる。 ▪児童の実態に合わせ、ワークシートや実験グループを工夫することで、全員が理解できるようにする。